

発行 口腔保健センター運営実施委員会

平成26年3月31日

日頃センターの運営にご協力いただきありがとうございます。センターも早いもので今年9月で11年目を迎えます。患者さんや会員の皆様がより利用しやすい施設を目指し運営してまいりますので、これからも更なるご理解よろしくをお願いいたします。

今回はセンターに新たに加わった職員の紹介と今年度参加した学会等の報告をさせていただきます。

センター職員紹介

今年度は、週4日勤務している大上先生を含め5名加わりましたのでご紹介いたします。

《平成25年10月から勤務しております大上沙央理と申します。平成15年に広島大学歯学部卒業後、東京医科歯科大学歯学部歯科麻酔科に所属し歯科麻酔を専門としました。有病者の治療の経験は浅く、センターでの診療は日々勉強になることばかりで、このような機会を与えていただいた関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。患者さんに安心と喜びを与えられるように精進したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。》

他、立石香事務、島野幸江衛生士、松丸愛衛生士、岡本眞理子衛生士です。スタッフ一同総勢13名今後ともよろしくお願いいたします。10月より歯科医師が増員したため予約も以前よりとりやすくなっておりますので、会員の先生からのご紹介よろしくお願致します。



上段立石事務・加藤事務・DH島野・DH西川・DH坂内
下段DH瀧澤・鈴木事務長・Dr大上・外園室長・DH岩淵・DH井原

第19回 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会に参加、発表して

平成25年9月22日(日)、23日(月・祝)岡山県倉敷市にある川崎医療福祉大学にて行われました。摂食・嚥下リハビリテーション学会に、古川隆彦副会長、今井昭彦委員長、田村朗副委員長、橋本かほる先生、末吉正幸先生と6名で参加しました。

本学会は、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保健師、栄養士、調理師等多様な職種が集まっていて、現在会員数が1万人を超えるまでに成長しているそうです。学術大会も、毎回5千名を超える参加者があり、発表もこれら多様な職種から出され、会場内は常に混みあい活気であふれています。体育館アリーナ会場では、企業展示コーナーが所狭しと設定され、企業展示は99社にも及びます。そのうち44社が食品関係で、その他に機器・機械、口腔ケア用品、介護用品が並んでいます。会場内は食物形態の試食が多くおいしそうな匂いが立ち込め、市場のような混雑ぶりです。他の歯科関係の学会とは異なった光景です。

私のポスター発表《知的障害者支援施設への摂食機能検査指導の実施》は、9月22日に行いました。平成19年から江戸川区口腔保健センター摂食・嚥下外来でおこなわれている江戸川区内の福祉施設利用者(希望の家等)に対する摂食機能検査の経過の報告を行い、健診を通じて、職員の摂食に関する知識や意識の向上が診られた点と、平成22



清水畑倫子

他地区からの口腔保健センター見学

9年に及ぶ多学会での発表や活動により当口腔保健センターも多くの方々に認知されてきました。その一例として全国いろいろな地区歯科医師会から見学の申し出が相次いできております。今年度は5月24日に旭川歯科医師会から三戸知史会長をはじめ4名の理事が、また11月28日には愛知県歯科医師会の本多豊彦理事をはじめ5名の地域保健担当の先生方が見学に訪れました。

この地区も高齢者が社会に対応するための診療や口腔ケア、訪問診療等に関する課題を抱えていることでした。

当センターでも通院ができなくなつてしまった有病高齢者の対応を検討している折なので他地区の先生方と意見交換ができたことは大変有意義なことだと思えました。

また、今後も要望があれば見学の希望には応対していく予定です。



愛知県歯科医師会視察

今井昭彦

第30回日本障害者歯科学会に参加して

10月11日、13日の3日間、神戸の国際展示場で第30回日本障害者歯科学会学術大会が開催されました。我々歯科医師会からは12日、13日の2日間、石川会長をはじめ、協力医、ここに診療所センター室長、常勤衛生士3名を含めた15名で本学会に参加いたしました。

初日のポスター発表ではセンターの岩淵衛生士が「対応が困難な自閉症者の対応」を発表いたしました。年齢と共に閉鎖性が見られなくなった自閉症の患者さんを、遠隔式乳幼児分析の発達検査を用いわかりやすく説明され、多くの方から質問を受けられていました。2日目は協力医の末吉正幸会長が当地区の医師、歯科医師、施設職員を巻き込んだ江戸川区摂食・嚥下研究会について発表しました。他職種と連携が見られたことに多くの反応がありました。ランチョンセミナーは大変人気が高く、フットコートでたきこぎ、コロッケ、カレーなどをつまみ立ち見の参加になりました。社



橋本かほる

編集後記

久しぶりにセンターに協力医として診療を行って思う事は本当に治療することが難しい患者さんがほとんどだということにあらためて気づかれます。

センターの診療は火曜日から土曜日まで行っています。木曜日は室長、大上先生、協力医2人の4人体制で、1日に患者さんは30人程で協力医1人で1日6〜7人の患者さんを見ています。一時間1人で時間には余裕をもつて予約していますが、有病高齢者の患者さんの場合、車いすで来られる方が多くユニットへの移乗に時間がかかり、また、モニターをつけるなど治療に入るまで時間がかかり、治療中も水平位にすることができない、口が開きづらいなど難しくなります。知的に障害のある患者さんを治療する際は口をあけてくれないこと、またバイトを探る際補綴物を装着する際は逆に口を閉じてくれないことがよくあります。自分の診療室に来てくれる患者さんはほとんどが黙っていても口を開けてくれますし、ホントにやりやすいと感じます。その分センターでの治療はやりがいがあります。勉強にもなります。協力医になりたいたいという先生方はセンター運営委員会まで一報ください。お待ちしております。

5月に協同医研修会、7月には江戸川区摂食・嚥下研究会、10月には10周年記念講演会を行いますので是非ご参加ください。

金栗勝仁